

企画展「こどもミュージアム—おとなも楽しい歴史体験—」の検証報告

1. 企画展「こどもミュージアム」展示計画について

(1) 基本資料

会期：平成31年7月20日(土)～9月16日(日) [51日間]
会場：博物館企画展示室・土曜ワークショップサテライト会場
観覧料：無料
展示利用者：5,201人

「こどもミュージアム」行事参加者 総計1,042人

<土曜ワークショップ・博物館友の会有志による行事>

- ・天秤棒で桶をかついでみよう (7回・200人)
 - ・たらいとせんたく板でせんたくしてみよう (7回・233人)
 - ・機織りをしてみよう (4回・90人)
 - ・縄文土器であそんでみよう (2回・106人)
 - ・風呂敷をつかってみよう (4回・239名)
- <紙芝居を楽しもう・(2回) 174人>

(2) 開催の目的

① 家族で一緒に楽しめる展覧会

子育て中の家族、子どもと保護者(親や祖父母)が、「わがまち」である松戸の歴史や文化を一緒に楽しく学べる展覧会とする。

② 子どもや大人も楽しい歴史体験

子どもや大人が実物資料にふれたり、様々な歴史体験することで、松戸の歴史や昔の生活に興味を持ってもらうとともに、子どもたちの自発的な学ぶ意欲と力を育てる。

③ 市民の協力を得る

「こどもミュージアム」の開催に対して、友の会や市民歴史サークル、子ども交流団体などの多くの市民の協力を得て、多彩なイベントを開催し、市民の皆様が集える広場となる。

(3) 展示の基本的な考え方

① 体験展示へのインストラクターのサポート

インストラクターのサポートのもとで、資料にさわったり、道具を使うなどの五感によって体験することで、松戸の歴史や昔のくらしを楽しく学ぶ展覧会とする。

② 実物資料を起点とする展示構成

博物館所蔵資料をはじめとする、松戸の歴史資料などの実物資料にこだわったプログラムを中心に展示する。実際には、実物資料の展示を起点に、レプリカ資料、体験プログラム、パズル、クイズなどによって、「さわる」「みにつける」「つかう」「つくる」「あそぶ」「かんがえる」などの要素を盛り込んだ歴史体験プログラムを制作する。

(4) 常設展示リニューアルに対する企画展「こどもミュージアム」の意義

こども体験展示ゾーン「(仮)こども歴史博物館」試作展示(モックアップ)

この企画展は、郷土の歴史を学ぶ子どもたちにとって、楽しく歴史と出会い、ふれあい、そして関心を深めていけるような魅力的な体験型の常設展示をつくるための有益な試作展示とする。

市民の方々にリニューアルした展示の姿をアピールする機会となる。また、この企画展示に対する利用者調査(どのような展示に興味を強く持つのかなど)を、常設展示のリニューアルにおけるこども体験展示ゾーン「(仮)こども歴史博物館」試作展示(モックアップ)としての制作途中評価調査資料を得ることも目的としている。

2. 開催報告：企画展「こどもミュージアム—おとなも楽しい歴史体験—」の成果と課題 —「(仮) こども歴史博物館」の試作展示として

(1) 展示利用者について

- ①展示利用者（来館者）のターゲットとして想定した「子育て中の家族、こどもと保護者（父母や祖父母）」が多く来館し、主要な展示利用者となった。展示利用者は「たんけんてちょう」を使いながら、それぞれの体験メニューにチャレンジし、展示全体を楽しむ傾向が強かった。
- ②興味を強く持ったことなどで再度の利用（リピーター）も多かったと報告されている。このリピーターの確認は、「(仮) こども歴史博物館」に期待される利用回数を重ねていく、利用形態につながる資料となったと考えられる。
- ③松戸市内の「子ども会」などのこども交流団体の利用は、市内8団体、市外6団体であった。また、市内小学校3年生1校の利用があった。また、高齢者の団体も市内外合わせて5団体の利用があった。

<展示利用者調査より> **子育て世代の親子が来館。**

- 松戸市や周辺に在住の家族連れ（特に親子）が自動車で来館。家族で利用は95.7%。親子で利用は77.7%。
- 子ども（13歳以下）の年齢層は平均すると7歳。親の世代は30代～40代が多い。

<展示利用者調査より> **じっくり体験が多い**

- 観覧時間は1時間以上が6割強。観覧タイプは全部とほとんどを合わせると6割強。
- じっくり時間をかけてすべての体験メニューをこなそうと熱心に取り組んでいる様子がうかがえる。網羅したいと思わせる要因は「探検手帳」（自由回答より）。

<展示利用者調査より> **子育て世代の満足度が非常に高い**

- 満足度は大変高く、不満の回答者は見られなかった。4段階評価で一番高い「満足」の割合が9割強。これまで開催された企画展の中でも満足度の非常に高い企画展と言えます。「いろいろな体験できた」「子どもが楽しめた・興味を持った」「大人も楽しめた」「期待以上だった」「スタッフがよい」などがその理由。
- 再来ニーズ（また来たいと思うか）も推薦の是非（誰かに薦めるか）も高い傾向にある。

<団体利用について>

市内こども交流団体・・・8団体／115人

市内高齢者団体・・・3団体／58人

市内小学校（根木内小3年生）・・・1校／68人

市外高齢者団体・・・2団体／35人

市外こども交流団体・・・6団体／75人

(2) インストラクターについて

- ①インストラクターの役割は、「展示利用者（来館者）」と「こどもミュージアム」を結ぶこと。「こどもミュージアム」の利用者は、インストラクターのサポートを受けながら、松戸の歴史資料（レプリカなど）にさわったり、かつての道具を使うなどの様々な歴史体験を実現できた。
- ②インストラクターは、日数の経験によって徐々に声掛けや各ゾーンの連携など習熟度を増した（個人差あり）。リピーターが多く確認されているのも、インストラクターによるコミュニケーションの力も大きいと推察される。
- ④「(仮) こども歴史博物館」のスタッフ育成への資料となった。しかし、こどもが学びを深めていくプロセスでの試行としては、展示内容からも限界があった。「利用者からの展示内容に問いかけには、こどもの発想を伸ばせるような声掛けや行動を心掛けること」の十分な実現は困難だった。

(参考資料 インストラクターの配置)

平日3名（縄文1名・80年前1名・絵と写真1名）

土日祝4名（縄文1名・80年前1名・絵と写真1名・その他1名） <10名のスタッフによって運営>

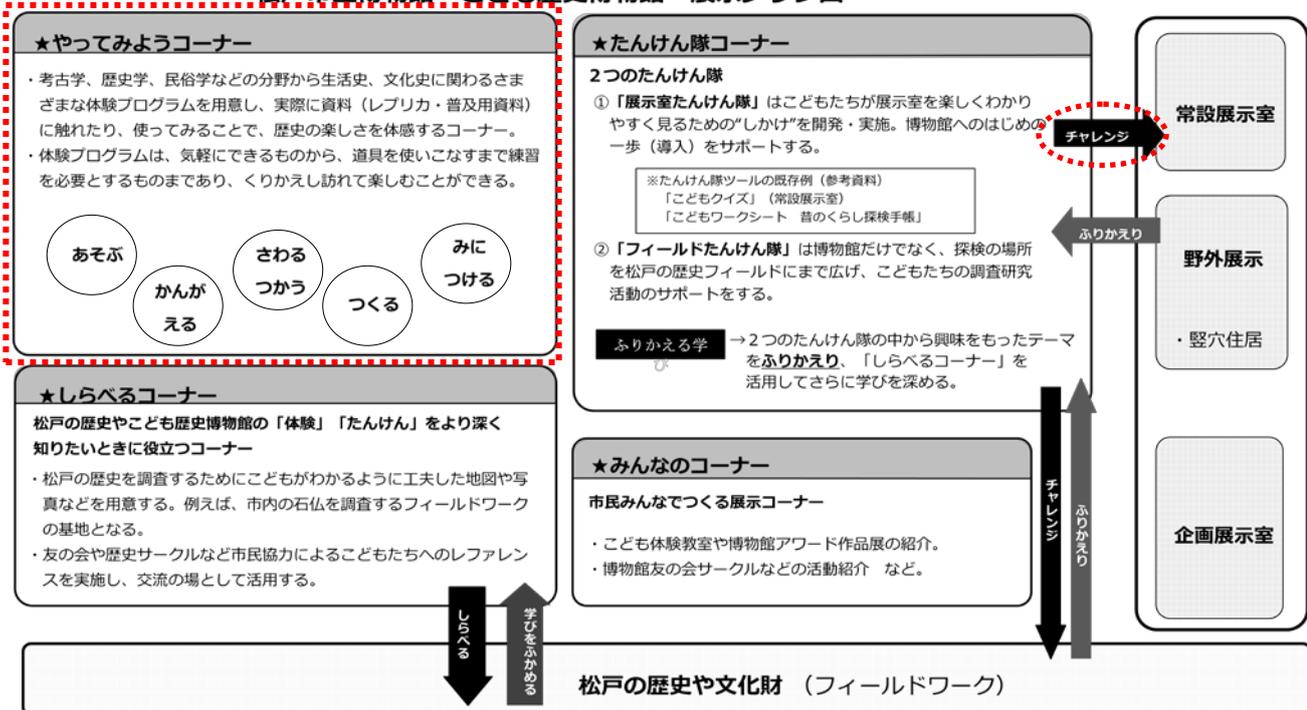
事前に「インストラクターのてびき」によってレクチャー（1日）

- 「たんけんきち」（「こどもミュージアム」のスタートとゴールの場所）で、インストラクターは展示利用者を出迎え、ワークシート「たんけんてちょう」を手渡し、観覧する際の注意点や、楽しみ方などを伝えた。

(3) 展示について

- ① 「こどもミュージアム」における実物資料を起点として、さわるレプリカ資料、体験プログラム、パズルなどによって、「(仮) こども歴史博物館」の中核である「やってみようコーナー」の「あそぶ・さわる/つかう・みにつける・かんがえる・つくる」の試作展示として、一定の成果を得たと考えられる。
- ② 「こどもミュージアム」において「(仮) こども歴史博物館」の「たんけん隊コーナー」「しらべるコーナー」「みんなのコーナー」の企画は、立案できなかった。
ただし、竪穴住居やプレイルームなどの連携は、開催中に展示を改善するなかで実現し、その効果の重要性を確認した。
- ③ 折り紙の体験では作品を貼るなどの展示コーナーをつくる工夫する余地があったといえる。

松戸市立博物館 こども歴史博物館 展示プラン図



●こどもミュージアムにおける特徴的な展示(抜粋)

ゾーン名称	「縄文時代をたんけんしよう！」		
展示項目	コメント1	コメント2	
知ってる場所、あるかな？ -縄文時代の松戸の遺跡- 〈松戸にこだわった身近な歴史〉	年配の夫婦が、自分の家の近くに遺跡があることを知り、地図を興味深そうに見ていた。(インストラクター8/7(水))	松戸の縄文遺跡地図で自分の小学校を見つけると、皆うれしそう。(インストラクター8/30(金))	

<p>縄文土器パズル にちょうせん！ くさわる・かんが える></p>	<p>縄文時代の土器のレプリ カでパズルするものが一 番楽しかったです。中々 難しく、パーツがあわな かったりして、けっこう遊 びごたえがありました。(こ どもモニター7/24(水))</p>	<p>土器パズルは完成形にして おいて、お客様の目の前で くずして見せると、目を丸くし てやる気になるようです。(イ ンストラクター8/1(金))</p>	
<p>ゾーン名称 「80年ぐらい前のくらしをたんけんしよう！」</p>			
<p>昔の洗たく道具 くつかう> *実際の水を使 った体験</p>	<p>小さなお子さん連れのお 母さんが、土曜ワークシ ョップの手押しポンプを自 分もやってみたくので、 また来ますと言っていた。 (インストラクター 9/12(木))</p>	<p>土曜ワークショップで実際 に水を汲める体験があつてよ かった。(インストラクター 9/16(月祝))</p>	
<p>着物を着てみよ う！ くみにつける></p>	<p>着物の展示。自分で実際 に着てみる事ができたこ とが楽しかった。(こどもモ ニター7/24(水))</p>	<p>着物試着体験の古風な柄 に保護者の方が大喜びされ ている。(インストラクター 7/26(金))</p>	
<p>ゾーン名称 「江戸時代から明治時代の絵で松戸を知ろう！」</p>			
<p>絵のなかにいる 動物のおりがみ をおってみよう！ くつくる> *(会期中に展示 改善)</p>	<p>おりがみは大人の方も楽 しまれている。持ち帰られ ることがうれしいとの声も。 (インストラクタ7/27(土))</p>	<p>御鹿狩の絵に「きつね」が描 かれているので、「きつね」 のおりがみがあるといいと のご意見あり。(インストラクター 8/8(金))→「きつね」追加 (8/12(月祝))</p>	
<p>ゾーン名称 「昭和時代の写真で松戸を知ろう！」</p>			
<p>松戸の写真クイ ズにチャレンジ！ くかんがえる></p>	<p>この地域の昔の写真が見 れたり、もより駅の写真 (五香)が見れてよかつ た。(展覧会アンケート)</p>	<p>親子で写真クイズに挑戦し てくれる方が多かつた。(イ ンストラクター7/31(水))</p>	

(4) 市民の協力について

博物館友の会による全面的な協力によって、土曜ワークショップとして、5つの体験メニューを毎週土曜に総計24回を博物館友の会の協力によって開催。しかし、その他の市民歴史サークルなどの協力企画は行えず、「(仮)こども歴史博物館」の幅広い市民協力を得る試みは実現せず、今後の課題として残された。

(5) こども体験ゾーン「(仮) こども歴史博物館」の実現に向けて

「こどもミュージアム」の展示利用者は、こども体験展示ゾーン「(仮) こども歴史博物館」が
つくられることを望んでいることが調査された。

<利用者調査> **子育て世代の親にとって「(仮) こども歴史博物館」は重要**

●「こどもミュージアム」のように子どもも大人も歴史を楽しく学べる体験型で無料の展示が常設化されることの重要度：「とても重要」と「重要」を合わせると94.6%。「重要ではない」を選択した人はいなかった。

●子ども向け展示メニューの充実

- ・「こどもミュージアム」でつくった体験メニューを、プレイルームや来年度再開する学習資料展で活かす。
- ・今後の企画展、資料展における「こども向け展示」の試みを継続する。
- ・こども体験教室などの事業において<しらべるコーナー><たんけん隊コーナー><みんなのコーナー>の内容を組み込む。

●幅広い市民の協力

今回の「こどもミュージアム」に対して、博物館友の会から最大限の協力を得たが、今後は、その他の市民団体やNPOなどの人々と協働の事業企画運営の基盤を作る。